

令和二年学力検査

全日制課程 A

第一時限問題 国語

検査時間 九時十分から九時五十五分まで

「解答始め」という指示があるまで、次の注意をよく読みなさい。

注 意

- (一) 解答用紙は、この問題用紙とは別になっています。
- (二) 「解答始め」という指示で、すぐ受検番号をこの表紙と解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (三) 問題は(1)ページから(9)ページまであります。(9)ページの次からは白紙になっています。受検番号を記入したあと、問題の各ページを確かめ、不備のある場合は手をあげて申し出なさい。
- (四) 答えは全て解答用紙の決められた欄に書きなさい。
- (五) 印刷の文字が不鮮明なときは、手をあげて質問してもよろしい。
- (六) 「解答やめ」という指示で、書くことをやめ、解答用紙と問題用紙を別々にして机の上に置きなさい。

受検番号

第

番

国語

一次の文章を読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

1

2

著作権に配慮して掲載を控えています

3

著作権に配慮して掲載を控えています

著作権に配慮して掲載を控えています

(注)

- ○ 1 6 は段落符号である。
- 往々にして 2 たびたび。
- ベルグソン 2 フランスの哲学者。
- ヴェール 2 物を覆って隠すもの。

(串田孫一『緑の色鉛筆』所収「見ることについて」による)

著作権に配慮して掲載を控えています

(一) 「A」、「B」にあてはまる最も適當なことを、次のアからイまでのの中からそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア むしろ イ しかも ウ そして エ たとえ

オ ところが カ なぜなら

(二) ^①それは違うと思います とあるが、このように筆者が述べる理由として最も適當なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 子供が大人より優れた観察ができるのは、子供だから未知のものに強くひかれるのではなく、大人がさまざまな経験を積む中で好奇心を失ってしまったからだと考えているため。

イ 子供が大人より見過ごされがちな事実を発見できるのは、子供だから優れた観察力があるのではなく、大人が必要なものしか注意深く見ようとしなくなっているからだと考えているため。

ウ 子供が大人より貴重なものを見つけ出せるのは、子供だから物事の真の姿を探し求めようとするのではなく、大人が合理性を優先するあまり探究心を失ってしまったからだと考えているため。

エ 子供が大人より多くのことに気づくのは、子供だから物事を丁寧に見ることができるとはではなく、大人が真剣に物を見ない怠慢さ自身につけてしまっているからだと考えているため。

(三) ^②芸術家の眼 の説明として最も適當なものを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 物を見るときに、見る必要があるかどうかに関係なく、細部まで見落とすことがないように観察しようとする姿勢

イ 物を見るときに、ただ単に細部まで注意深く見るのではなく、目新しいものを見逃さないようにしようとする姿勢

ウ 物を見るときに、目に見える部分だけで満足することなく、隠れて見えない部分まで見つけ出そうとする姿勢

エ 物を見るときに、必要であるかどうかという判断にとらわれることなく、自由に対象を見ようとする姿勢

(四) 次のアからオまでのの中から、その内容がこの文章に書かれていることに近いものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 外出先で見たものをノートに書いて持ち帰ることがあるが、その際の記録には足りないものが多い。丁寧に観察したとしても、気づかずに見過ごしていることがある。

イ 研究を行う際には粘り強く実験を行い、確実な根拠を得ることが大切である。一度失敗したとしても、何度も実験を繰り返して大きな発見に至った経験は貴重である。

ウ 観察で気づいたことがきっかけとなって大きな発見に至ることがある。不思議に思ったことを大切にして一生懸命観察したり実験したりする中で、貴重なものを見つけるのである。

エ 自分ではよく見えているつもりでも、見落としがあるなど不完全なことが多い。物を注意深く見る力は、目の前にあるさまざまなものを日常的に記録する習慣を通して養われる。

オ 大人になると、これまでの経験に照らして物事を理解したつもりになってしまふことがある。自然と向き合う時間を確保し、子供の頃の感受性を取り戻すことが必要である。

(五)

この文章の内容がどのように展開しているかを説明したものとして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 日頃の自然観察の経験と旅先で見た子供たちの自然観察の記録を比較して、そこから得られる教訓を示し、子供の頃の好奇心を維持していくことの必要性を説いている。

イ 筆者の経験から見ることに関する問題を提示し、合理的な判断の限界にも目を向けた上で、何かにとらわれることなく物を見ることは日常に充実感をもたらすと指摘している。

ウ 自然の中での経験が人間の世界観に与える影響に着目し、筆者自身の慌ただしい日常生活と対比しながら、自然をじっくりと観察したり体験したりすることの大切さを説いている。

エ 常識とされていることの誤りを示す事例を複数紹介し、自分の目や耳で確認することには限界があることを明らかにした上で、合理的に思考することの重要性を指摘している。

二 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の①、②の文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① 最後の一文に筆者の思いが凝縮されている。

② 京都には世界各国から観光客がオトズれる。

(二) 次の文中の「③」にあてはまる最も適当なことを、あとのアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

妹は、海外に出張している父の帰国を「③」の思いで待っている。

ア 東奔西走 イ 日進月歩 ウ 一日千秋 エ 千載一遇

三 次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

2

1

著作権に配慮して掲載を控えています

4

3

著作権に配慮して掲載を控えています

(一)

①

にあてはまる最も適當なことばとそのことばの意味を、それぞれ次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

〔ことば〕

ア らちが明かない

イ 枚挙にいとまがない

ウ 取るに足りない

エ みじんもない

〔意味〕

ア 数えたらきりがない

イ 少しもない

ウ 全くないわけがない

エ 仕方がない

(二) ②

まるで生態系における生物の適者生存のようである とあるが、これは科学のどのような点をたとえたものか。その説明として最も適當なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 多くの研究者から支持を集めることができれば、現実への適応度が低い仮説であつても定説として認められていく点

イ すぐれた仮説と不完全な仮説が入り交じっている中から、修正の必要がない適応度の高い仮説だけが選ばれて生き残っていく点

ウ 現実を説明しきれしていない適応度の低い仮説でも、完全に誤りであることが証明されなければそのまま受け入れられていく点

エ さまざまな仮説の中で適応度の高い仮説が生き残り、さらに適応度を高める修正が繰り返されて発展していく点

(三) ③

科学の進化し成長するというすばらしい性質 とあるが、科学がこのような性質をもつ理由を、科学的知見の特徴を踏まえて要約し、八十以上九十字以下で書きなさい。ただし、「不完全」、「努力」、「確度」という三つのことばを全て使つて、「科学的知見は、……」という書き出しで書くこと。三つのことばはどのような順序で使つてもよい。

(注意)

・句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。

・文は、一文でも、二文以上でもよい。

・左の枠を、下書きに使つてもよい。ただし、解答は必ず解答用紙に書くこと。

									科
									学
									的
									知
									見
									は
									、

90

80

(四) ④ 權威主義の内容を説明している部分を、第六段落の文章から二十五字程度で抜き出して、始めの五字を書きなさい。

(五) この文章中の段落の關係を説明したものとして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 第二段落では、第一段落で述べた科学の発展の歴史について具体例を挙げながら整理することにより、問題を提起している。

イ 第三段落では、第二段落で挙げた具体例をもとに科学的知見の正確さを説明し、科学の在り方に対して疑問を投げかけている。

ウ 第四段落では、第三段落で述べた科学の長所が悪用される可能性を指摘し、科学者が今後解決すべき課題を導き出している。

エ 第五段落では、第四段落で述べた科学の性質についての分析を踏まえ、我々が科学的知見にどう向き合うべきかを考察している。

(六) 次のアからオは、この文章を読んだ生徒五人が、意見を述べ合ったものである。その内容が本文に書かれた筆者の考えに近いものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア (Aさん) ノーベル賞を受賞した業績でも、何十年もたつてから誤りが見つかることがあります。また、科学者が榮譽を求めるあまり不完全なままで仮説を発表することも考えられるので、科学の知見に対しては疑いの目をもって接していく必要があると思います。

イ (Bさん) 科学の仮説は、修正が繰り返されることによって正しい仮説へと高められます。現実を例外なく説明できる正しい科学的知見をつくり上げることが科学者の使命であり、そのプロセスに多少の誤りがあっても、私たちは科学者を信頼する必要があると思います。

ウ (Cさん) 科学的知見は百パーセントの正しさが保証されるものではないので、その確からしさを判断することが必要です。それはとても困難なことですが、私たちは信頼できる情報を集め、先入観なく物事を見て、自らの理性で考えようと努めることが大切であると思います。

エ (Dさん) 新たに発見された科学的知見が正しいかどうかを専門家ではない人間が判断することは、現実的には難しいと思います。ですから、『ネイチャー』に論文が載るようになすくれた研究者の判断に任せる姿勢が大切であると思います。

オ (Eさん) 私たちは教科書や専門書に書かれていることは正しいと信じてしまいがちですが、科学の仮説は長い時間の中で批判に耐え、適応度を上げていくものです。このように、科学の知見は不動の真理でないことを理解した上で、科学に接していく必要があると思います。

四 次の漢文（書き下し文）を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。（本文の……の左側は現代語訳です。）

西伯さいはく陰いんに善ぜんを行ふ。諸侯しよこう皆来きたたつて平たいらぎを決けつす。是こゝに於おいて虞ぐ・芮ぜい人知しれず 周しう辺へんの国 公平くひんな解決けつげつをつけて 周しうの君主しゅんしゅが 公くの君主しゅんしゅが

の人、獄ごく有りて決けつすること能あたはず。乃すなはち周しうに如ゆく。界さかいに入るに、耕かうす 訴訟そしごが起きて裁決さいけつがつかなかった そこで周しうへ行いつた 国境こくけい

者あ皆畔あを譲あり、民あの俗あは皆長あに譲ある。虞あ・芮あの人、未いだ西伯さいはくを見みざるに、 人々あの風習あは年長者あを 尊重あするものであつた

① 皆慙あぢ相謂あひて曰いはく、「吾わが争あふ所あは、周人あの恥あづる所あなり。 恥あじて互あいに言あうことには、

何ぞ往あくことを為あさんや、祗あに辱あを取らんのみ。」と。遂あに還あり俱あに 返あして（西伯さいはくのところへ） そのまま引き 返あし

③ 去ある。諸侯しよこう之あを聞あきて曰いはく、「西伯さいはくは蓋あし受命あの君あなり。」と。 思あうに天あから使命あを 受あけた君主あである

（『史記』による）

（注） ○ 西伯さいはく中国の周王朝の基礎をつくつた人物。西方の諸侯の長。

○ 虞・芮あともに、中国古代の国名。

○ 畔あ田んぼの中の小道。

(一) ① 皆慙あぢ とあるが、虞と芮の人がそのような気持ちになつた理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 周の民が君主に頼ることなく自ら訴訟問題を解決したから。
イ 周の民は誰もが相手を重んじ優先する態度を身につけていたから。
ウ 周の民は自分たちの生活に不満をもつことなく暮らしていたから。
エ 周の民が他国から来た自分たちを温かく迎えてくれたから。

(二) ② 祗あに辱あを取らんのみ の現代語訳として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。
ア 絶対に恥あだけはかきたくない イ まだ恥あをかく覚悟ができない
ウ きつと恥あをかかされるはずだ エ ただ恥あをかくだけであろう

(三) ③ にあてはまる最も適当なことを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。
ア 譲りて イ 見て ウ 争ひて エ 取りて

(四) 次のアからエまでのの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。
ア 人々が互いに尊重する心をもっていれば、国が大きな困難に直面したとしても、一つにまとまって乗り越えることができる。

イ 国と国の争いを収めるためには、第三国が仲介に入り、それぞれの国が譲り合えるよう調整を図ることが必要である。

ウ 国を治める者がふだんから正しく行動することによつて、人々は影響を受け、国全体が自然と治まっていけるものである。

エ 一つの時代のどこの国においても、年長者を敬うことは、人々が暮らしていく上で大切にしなければならないことである。

（問題はこれで終わります。）

(注) ※印欄には何も書かないこと。

第1時限 国語正答 全日制課程 A

四	(一)	イ	(二)	エ
	(三)	ア	(四)	ウ

三									
(六)	(四)	(三)							(一)
(ウ) (オ)	権威の高さ	い	絶え	間に	さ	え	め	度	か
		る	間	に	ら	る	、	だけ	らし
		か	な	修	正	で	ん	が	い
		ら	く	正	す	も	な	問	の
		。	続	け	る	、	に	題	か
	(五)					そ	正	で	と
						れ	し	あ	い
						を	く	る	う
						見	見	た	確
						不	確	に	確
						エ			

90 80

二	(一)	①	きようしゅく	(二)	②	訪 (れる)
	(二)	③	ウ			

一	(四)	(ア) (ウ)	(五)	イ	(一)	A (オ) B (ア)
	(三)	エ			(二)	イ